

第 35 回環境アセスメント動物調査手法講演会

日本環境動物昆虫学会生物保護とアセスメント手法研究部会では、1991 年から環境アセスメントや野外調査に従事されている技術者・研究者の方々を対象に、昆虫、野鳥、その他の動物の調査手法やデータ解析法を解説しています。調査技術の一層の向上と野生生物の保全を目指し、毎年講演会を開催しており、今年度で 34 回目を迎えます。

今年度は、オンラインと対面のハイブリット形式とし、3 件の話題提供と致しました。今回もできる限り最新の情報を踏まえた内容となるよう、企画いたしました。環境アセスメントや野外調査に従事されている方々にとって、有益な内容となっております。日本環境動物昆虫学会の会員の皆様だけでなく、非会員の皆様にもぜひ奮ってご参加頂けますよう、よろしくお願い申し上げます。

主 催 (一社) 日本環境動物昆虫学会

日 時 2026 年 7 月 26 日 (日) 13:30~16:50 ※12:00 までは入場できません

場 所 大阪公立大学 I-site なんば (大阪市浪速区敷津東 2-8-1 南海なんば第一ビル 難波・大国町近く)
全館 飲食禁止の徹底 (ペットボトル可、蓋つきのカップのコーヒー不可)

開催方法 現地会場ならびにオンライン (Zoom) によるハイブリット開催を予定しております。

オンラインの受講を希望された参加者様には、Zoom ID と PW をメールにてお送りいたします。

企画運営 生物保護とアセスメント手法研究部会

上田昇平 (部会長)、今井健介、加藤敦史、江田慧子、千々岩哲、中上喜史、林 成多、
平井規央、松野茂富、八尋克郎、渡辺黎也

内 容

1. 日本産ゲンゴロウ科幼虫の絵解き検索 (13:35~14:35)

渡部晃平 (石川県ふれあい昆虫館)

ゲンゴロウ科は水中生活に特化した形態を有する水生甲虫で、日本産種の約 4 割が環境省版レッドリストに掲載されている。本講演では、形態的特徴が明らかになっている日本産種の幼虫の絵解き検索を紹介する。

2. 落葉広葉樹林帯に生息するイヌワシの採餌環境、餌利用、および繁殖活動の調査と

調査結果を踏まえた保全策の確立 (14:40~15:40)

布野隆之 (兵庫県立大学大学院)

ブナ林は、日本の代表的な落葉広葉樹林です。ブナ林では、初春に一斉展葉がおこります。本講演では、ブナの一斉展葉が、イヌワシの採餌行動、餌利用、および繁殖活動に与える影響と、それらの影響を考慮した本種の保全策を紹介します。

3. 休耕田ビオトープを活用した水生昆虫類の保全策 (15:45~16:45)

渡辺黎也 (倉敷芸術科学大学)

水田環境に生息する水生昆虫類は、生息地の劣化・減少により多くの種が減少傾向にある。

それらの保全手法として、休耕田ビオトープ (湿地化した耕作放棄田・休耕田) の管理手法と立地条件に焦点を当てて解説する。

参加費

会員 3,000 円 (個人会員、法人会員 (維持・賛助) の企業及び団体に所属されている方)

非会員 4,000 円 学生 2,000 円

参加費振込先: 三菱 UFJ 銀行 信濃橋支店 日本環境動物昆虫学会 普通 0264018

申込方法

参加費を振込の上、件名を「環境アセスメント講演会申し込み」とし、下記の①~④の項目をメールに記入して、E-mail アドレス **【kandoukon@outlook.jp】** までご送付ください。

①氏名 ②ご所属、住所、メールアドレス、電話番号

③会員種別 (本学会員 (正、賛助、維持、学生)、非会員、学生) ④参加方法 (対面、オンライン)

後日、受付完了の返信メールをお送りします。1 週間以内に返信メールが届かない場合は、お手数ですが再送信をお願いいたします。